

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を掲げ、朝礼等で唱和し、全職員が共有・把握し、実践へ繋がるよう啓発している。	職員が話し合っった事業所の理念を朝礼等で唱和している。事務所内に掲示しており、職員会議でも理念の共有が図られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会に入会。地域活動として清掃活動や地域の集いにも参加。また地域の保育園とも交流も行き、地域との繋がりを深めている。	地域自治会に入会している。職員が一斉清掃に参加をし地域との交流を図っている。今年は近所の保育園の夏祭りのさそいを受けている。9月に予定しているニチイ祭りに保育園を招待する予定。又、地域の中学生の体験学習の受入れも検討されている。近くのAコープには買い物に出かけ交流がある。ボランティアのフラダンス、ギター演奏があり地域とのつながりを大切にされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の文化祭・イベント等や運営推進会議等を通じて、認知症介護に関する質問や相談に応じ、認知症についての理解、より良い介護につなげる説明・助言を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を行っている。協力医・民生委員・自治会長・老人会・地域包括支援センター・介護保険課・ご家族代表に参加して頂き意見交換しサービスの向上に努めている。	2ヶ月に1回開催されている。7月より利用者2名の参加を予定され表情や動きなどから今後の参加、意見等に活かされる。今後も自治会長、民生委員に意見を頂いたり、話し合い等行いをグループホームを理解してもらい取り組みをしたいと管理者は話された。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問点等があれば、市の介護保険課や地域包括支援センターの担当者に連絡を取り、確認や情報交換を行っている。事故等に関する報告も速やかに行うようにしている。	市からの災害時避難者受入れ要請に対して8人可能と返事。市との協力体制がある。防災の取り組みは今後も検討される。事故等があった場合には速やかに連絡を行うような体制もできている。地域包括とも情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、毎月ミーティングで研修を行ない、理解を高め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束拘束委員会があり毎月勉強会を行っている。スピーチロックについても場の状況を説明する話し方など都度職員で話し合われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	業務ミーティングで勉強会を行なっている。虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	島根県主催の研修会に職員が参加している。ミーティングなどで他職員にも伝達講習を行い、情報や知識を共有する事ができた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項のご理解・納得がいただけるよう十分な説明を行ったうえで契約の締結へ移行している。退去の際にも署名・捺印等の必要な手続きを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置やアンケート等は行っていないが利用者様の日常ケアやご家族の面会時に意見・要望をお聞きし、改善に努めている。	家族会が4月に行われた。23年12月のニチイまつりに家族が参加されホームの様子を見られる機会になった。運営推進会議や面会時に意見を聞き運営に反映させている。利用者の意見要望については日々のケアから汲み取りられている。	今度法人より全事業所の職員ユニホームが名前入りとなる。顔と名前が分かりよい支援に繋がると話された。さらに職員と良い関係作りのためより良い方法・職員の写真を掲示など考えられたのでしょうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング時や朝の申し送り時等で意見交換を行い職員の意見を取り入れ検討し、改善している。個人面談をすることで職員の要望や提案に耳を傾け働きやすい職場作りに努めている。	随時ミーティングを行っている。不参加の職員は連絡ノートで確認をし押印・サインを記している。全体ミーティングで意見、要望を聞き改善に役立っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の特性や悩み、能力を把握し、その時々適切なアドバイスや指導をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画に基づき定期的な研修会への参加、実施を行っている。法人外の研修会等にも参加出来るよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松江地域介護サービス事業所連絡会グループホーム部会に加入。研修会に参加し、勉強している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で生活状況や心身状態を把握し、ご本人との直接面談とご家族・ケアマネから情報を得て、早くなじみの関係が出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの申し込み時や施設見学および面接時に意向を確認している。 入所後も状態報告を通じて、意向の確認をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族との面会時で意向などから現状の支援の見極めや確認を行い、助言・援助を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人に出来ることや得意な能力を活かしてもらえようような援助を心がけている。(調理・食器拭き・洗濯たたみ・軽掃除等)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々のケアを提供する中で、気づきや提案をご家族に伝え、情報交換を行っている。そしてご家族の協力を得ながら外出や外泊等の機会が持てるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出を制限することは無い。 友人・知人近所なじみの方や親戚等の面会も自由に行っていたいである。 なじみの人との交流が継続して頂けるよう支援に努めている。	家族、友人、知人など面会に来られる。家族の住まいの関係で遠方からの入所の方も家族が頻りに面会に来られ関係の継続が行われている。地域の理美容の利用はないが、訪問理美容サービスの利用で馴染みの関係作りは行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	和室・食堂のテーブルなど自由に座り、馴染みの方同士で話をされている。 入居者同士の声掛けや促しなどもトラブルにならない限り見守るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	個々の状況により、必要に応じて連絡や面談をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様お一人ずつのアセスメントを実施し、ご本人・ご家族からの意向に沿えるように努めている。	家族や利用者から聞き取りアセスメントを実施している。生活の中から都度聞き取り思いや意向の把握をしている。最高齢の101歳の方についても、自分で希望、意向を話されるので支援に取り入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの過程において、ご本人の生活歴や暮らし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子や、受診の内容などの記録・定期的なアセスメントなどにより現状の把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の要望を聞き、カンファレンス・モニタリング等を行い、職員間で共有し、介護計画を作成している。モニタリング(評価)を毎月実施し、計画の継続・変更の必要性を確認している。	家族や利用者から思いや意向、希望を聞き介護計画を作成されている。変更が必要時は都度変更され適切な介護計画を作成されている。日常生活支援ノートを利用され現状の把握をされる。ミーティング月1回、カンファレンスは随時行われる。モニタリング毎月。評価3ヶ月1回実施されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、職員の気づきなどを記録し、申し送りやカンファレンスの時に共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ミーティングやカンファレンス等で話し合い、その時の状態に応じ、柔軟に対応出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前の地域資源の利用は難しいが、地域の皆様やボランティア等の協力を得て支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1回～2回の頻度で定期往診を行い、急変時の受診がスムーズに行えるよう日常の状況提供等の支援に努めている。	月1～2回定期往診が行われている。地域のかかりつけ医には家族が同行される。急変時の受診は職員が同行し家族に連絡等適切な対応が行われる。協力医、かかりつけ医、家族、事業所間で密に情報提供が行われ利用者の安心が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師やかかりつけ医の看護師に相談し、助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関への情報提供を行ったり、面会・カンファレンス等に参加したり、ご家族と連絡を取り合いながら、利用者様の状況確認をおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	全利用者様のご家族に対し、当施設の[重度化した場合における対応に係わる指針]説明し、同意を得て頂き、利用者様の状況変化に応じて、ご家族・主治医・訪問看護と連携を密に、対応している。	契約時「重度化した場合における対応に関わる方針」の説明が行われている。現在終末期の利用者はおられない。医療ケアが必要な場合、ご利用者、ご家族が望まれ入居生活が可能な限り継続できるよう主治医、訪問看護、職員間の意思統一を目指しておられる。職員に協力医が重度化や終末期に向けた指導の勉強会をしている。	現在利用者で重度化や終末期の方がおられないが職員の理解を深め方針の共有や支援の方法の取り組みをされる戸よいと思います。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を実施し、実践力を身に付けるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行い、利用者様が避難できる方法を全職員が身につけている。地域の消防団とも協力体制を築いている。	防災訓練は年2回実施される。地域の消防団とも打ち合わせをして日中の訓練実施時は多数の参加があった。11月予定の夜間訓練時にも消防団参加される。消防団にはホームの配置図を確認され避難の協力体制が築かれている。利用者の避難場所はホームの駐車場で安全確保ができる。	ニチイまつりなどでホームを利用し救急蘇生、AED使用方法などの講習会を開催され地域と防災の連携を深められるよう考えられてはどうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録物等は、取り扱いや保管に細心の注意を払い、個人情報保護に努めている。利用者様への声掛けや態度はプライバシーが守れるよう心掛けている。	記録物は鍵のかかる書庫に保管してある。研修は年1回実施されている。個人情報保護トレーニングとして研修、テストが入社時及び定期に実施されているが、繰り返し学習する機会がもうけられていることで、職員は理解を深めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かやってみたい事や行きたい所はないか尋ねたり、飲みたい物や食べたい物が選べるような状況を作り自己決定へ導いていけるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	畑での作業が好きな人や手芸の好きな人、料理が好きな人とそれぞれの個性が活かされるよう、心掛け、生き生きと明るい表情が見受けられるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の思いで整容しておられる。出来ないところは、支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は本社からきているが、個人の好みや希望を聞き、変更もしている。季節行事や誕生会等は希望に沿った支援をしている。食事の準備や後片付等も出来る限り一緒にして頂いている。	下膳、食器拭きを職員の支援でされる方もある。介助で摂取されたり自室で食べられる方もあり個々に添った支援が行われていた。外食に出かけることはないが誕生会の時はスーパーにお寿司を買いに行くなど楽しみな食事もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分量・食事量をチェック表に記入し、脱水・栄養不足にならないよう支援している。月1回体重測定実施。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは個々の能力に応じ、声掛け・見守り・介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成。 一人ひとりの排泄パターンに合わせて、声掛けやトイレ誘導を行っている。 極力自力で出来るように見守り支援している。	排泄チェック表を利用し、利用者個々のタイミングを図りながらの支援が行われている。リハビリパンツから布パンツへと排泄の自立に向けた支援も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に記録し、水分量の確認や運動を行っている。主治医指示の服薬を行い、合わせて腹部マッサージ等も実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜日以外は午後から入浴できる体制で一人一人ゆっくり入浴できるよう支援しています。入浴拒否の方もうまくスムーズに入浴できるよう工夫している。	3日に1回、毎日、希望に応じてなど一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴が行われている。拒否のある方には声かけやタイミングで入浴介助をされる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない時にはホールで一緒にお茶を飲みながら、お話をしたりして、気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の個別リストを利用し、職員全員が把握出来るようにしている。 服薬時は、ご本人に手渡し、服薬の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や特技を活かし、畑仕事・台所仕事・洗濯等の場面で活躍できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩や近隣への買い物等の外出支援を行っている。年に数回はタクシーに分乗して出掛けている。	月1回地域のスーパーなどへ買い物外出を行っている。行事など外出時の車使用は安全の為法人よりタクシーの利用が決められている。遠方などタクシー料金が高くなる時は法人に相談される。時々夕方にホームの近くで宍道湖の夕日を見に行き利用者は喜んでおられる	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでお金を預かり、お小遣い金管理台帳にて管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、その都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂のテーブルの上に季節の花を一緒に活かしていただいたり、季節感を感じてもらえるよう飾りつけをしたり、気候の良い季節にはテラスで、お茶を飲んで頂いたりしている。	居間の食事をされるテーブルには家族、職員が持ち寄られた季節の花が生けてあった。浴室、トイレには使いやすい手すりがあり安心できる。気候が良いときはテラスでお茶を飲まれる。ホーム内は空調、調光についても、快適に過ごせるように管理されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで過ごしたり、和室で過ごしたりして頂いてる。 テラスにも椅子を準備したりして好きな場所で過ごして頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に今まで家で使っておられたなじみの品を持参して頂き、人形・写真等飾り、落ち着いた居心地良く過ごせるよう工夫をしている。	部屋には使い慣れたベッド、筆筒、家族の写真が持ち込んでいただくようにされ、居心地よく生活できる工夫をされていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー構造、廊下やトイレ・風呂場に手すりを設置し、安全面に配慮。トイレ・風呂場・居室前には目印になるものをつけ、場所が分かりやすいよう工夫に努めている。		